

News Release



平成 20 年 9 月 11 日
国立大学法人京都大学

人工多能性幹細胞（induced Pluripotent Stem Cells; iPS 細胞）の作製方法に関する特許が成立（日本）

京都大学 物質－細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センターの山中伸弥教授が世界ではじめて樹立した人工多能性幹細胞（induced Pluripotent Stem Cells; iPS 細胞）に関する特許につきましては京都大学が権利者となって特許出願を行っておりましたが、この度 iPS 細胞の作製方法に関する特許が日本で成立しましたことをお知らせいたします。

成立した特許の特許請求の範囲は以下のとおりです。

「体細胞から誘導多能性幹細胞を製造する方法であって、下記の 4 種の遺伝子：Oct3/4、Klf4、c-Myc、及び Sox2 を体細胞に導入する工程を含む方法。」

京都大学は、国際出願（PCT/JP2006/324881、国際公開 WO2007/69666、国際出願日 2006 年 12 月 6 日）から日本国に移行手続きをした特許出願（特願 2007-550210 号、親出願）をもとに本年 5 月 20 日に分割した特許出願（特願 2008-131577 号、分割出願）を行いました。今回の特許はこの分割された特許出願に対して付与されました。

特許庁からこの特許出願について本年 8 月 21 日付けで特許査定を受領し、9 月 2 日に特許料（設定登録料）を納付しています。

この特願 2008-131577 号については分割出願と同時に早期審査請求を行いましたところ、速やかに審査がなされ、出願審査請求から約 3 ヶ月で特許されるに至ったものです。

この分割出願については未だ出願公開をされていませんが、特許法の規定により、今後特許公報が発行されることとなります。

今回成立した特許の内容は、簡単に言えば、4 つの遺伝子を体細胞（例えば皮膚細胞）に導入する工程により iPS 細胞を製造する方法に関するものであり、特許法の規定により、この方法で製造された細胞にもその権利が及びます。

本件は日本以外の国にも出願しておりますが、日本で最初に権利登録されることとなりました。権利期間は親出願である特願 2007-550210 号の出願日（国際出願日に相当＝2006 年 12 月 6 日）から 20 年間です。

以上

本件担当： 京都大学 物質－細胞統合システム拠点
iPS 細胞研究センター 支援室
TEL : 075-751-4842
FAX : 075-751-0691
Email : ips-contact@icems.kyoto-u.ac.jp